Interview

新たなビジネスモデル導入　デジタル技術導入　異業種連携

協議会会員のみなさん

地域一体のグリーンツーリズム

02

（一社）仙北市農山村体験推進協議会

Data

所在地：秋田県仙北市　　設　立：２００８年
会員数：正会員５７団体、準会員８団体
事業内容：教育旅行・国際旅行団体の受入、都市農村交流事業、農山村体験や着地型旅行商品の提供、農泊の推進

ここがポイント！

- 協議会が主体となり事業者をまとめ、地域の実情に沿ったツーリズムを推進
- 持続的な観光客受入のため、地域住民に対するサポート体制を整備

1. 実施団体について

秋田県仙北市は、平成17年に旧田沢湖町、旧角館町、旧西木村が合併して誕生、農林業と観光業が盛んで、乳頭温泉郷や田沢湖等の観光スポットが点在する。本取組の主体は、平成20年に市、観光協会、JA等が連携して設立した仙北市農山村体験推進協議会だ。旧町村の括りを越えて、地域一体でグリーンツーリズムを推し進めている。

▲農家民宿 **庵**（いおり）

2. 取組の背景

50年以上前から続くグリーンツーリズム

仙北市のグリーンツーリズムの始まりは、今から50年以上前に遡る。昭和40年代にわらび座（あきた芸術村を拠点とする劇団）で教育旅行の受入を始めたことに端を発し、昭和46年の冬季国体開催に向けた民宿の開業が増加。同協議会は、形態・規模の異なる農家民宿等の宿泊施設をまとめ、地域全体として団体客やインバウンド客受入等に向けた活動を進めてきた。

観光従事者へのサポート体制が必要

観光資源が豊富な仙北市は、元々観光地として人気があった。サービス精神旺盛な地域住民の気質も相まって、来訪者からの満足度も高い。その一方で、持続的に“稼ぐこと”に対する地域住民の意識が低く、来訪者数の割に収益が上がらないことが課題であった。

そのため、同協議会が主体となり、まずは地元住民の意識改革に着手。また、本業のある農泊運営者にとって、宿泊前の顧客とのやり取り等の煩雑な事務作業は負担になってしまう。そうした事務的サポートも含め、地域の人々が観光サービスの提供に注力できる環境づくりを目指した。

3. 取組の内容

同協議会は、平成30年に国内旅行業務取扱管理者資格を取得し、地域限定の旅行業に登録、同年法人化した。さらなる事業展開を進める協議会が、近年力を入れている取組を紹介する。

①ワンストップ予約サービス

地域内の宿泊・体験・食事等の観光サービスをワンストップで提供できるHPを構築した。観光客は、HP上で観光コンテンツを一括検索・リクエスト型での予約ができる。観光従事者にとっても、予約受付の作業負担を減らすことができ、サービス提供者・利用者双方にとってメリットが大きい。

◀おにぎり作り体験の様子

物販商品「母さんのおすすめセット」▶

②物販事業

コロナ禍で新たに開始した事業が、仙北市の食材を地域外に配送するサービスだ。利用者は現地に来訪せずとも、仙北市ならではの山菜や加工品といった地域の味を楽しめる。コロナ禍で余ってしまった食材を有効活用しつつ、物販を通じて仙北市のファンを醸成し、コロナ収束後の来訪に繋げたいというねらいがある。

▲物販セットの梱包作業

③教育旅行・インバウンドの受入強化

団体旅行・インバウンドの受入のため、地域全体として受入環境整備や営業活動を継続している。コロナ禍以前は、特にタイや台湾を始めとしたインバウンド客の取り込みに注力しており、実際に現地の学校を訪れるなど、積極的な活動を行ってきた。

4. 工夫した点

外国語対応には地域おこし協力隊が参加

HP構築当初は、外国語対応に頭を悩ませたという。当時は各国からの問い合わせに対応ができる職員がおらず、翻訳ツールを使って試行錯誤していた。しかし、現在は強力な助っ人がいる。英語が堪能な「地域おこし協力隊」の参加により、英語版HPやインバウンド対応の充実につながった。

地域住民の取り込み

「地域おこし協力隊」のほかにも、同協議会には宿泊・観光施設や食事処など、地域内の多様な事業者が会員として参加している。市と地域住民の長い信頼関係によって、会員の取り込みに苦労は少なかった。

5. 成果

外国人利用客は8倍以上に増加

地域一体でのPR等により、グリーンツーリズム利用者は著しく増加した。平成24年に約300人だった外国人利用客は、コロナ禍以前の平成31年は2500人にまで増加した。当初は教育旅行などの団体客が多く占めていたが、海外向けPRが功を奏し、徐々に個人のインバウンドも増えていった。

さらに、地域住民の意識にも変化が見られた。これまでは単純な生きがいづくりとして民宿を始める人々が多かったが、根気強くコミュニケーションを重ねたことで、採算管理の意識が定着してきたという。事業者間の情報交換の場にもなっており、地域活性化に多面的に繋がっているそうだ。

6. 今後の展望

グリーンツーリズムを地域の活力に

大きな目標は、これまでのグリーンツーリズムの取り組みの継続だ。コロナ禍で始めた物販事業によって、会員同士の新たな結びつきが生まれているという。
元々は協議会から地域への声がけで始まったサービスだが、現在ではむしろ会員の方が結束して主体的に進めているようだ。地酒セットなどの仙北市ならではの商品は利用者からも好評で、来年度以降の物販に向けて、早速動き始めている。

取組の関連情報はこちら

・一般社団法人　仙北市農山村体験推進協議会
https://semboku-gt.jp/